

かながわパークレンジャーの活動報告

羽生田 麻衣*、石川 瑠美子*、浅見 葉人*

Activity Report of Kanagawa Park Ranger

Mai HANYUDA*、Rumiko ISHIKAWA*、Kamihito ASAMI*

要 旨

羽生田 麻衣・石川 瑠美子・浅見 葉人:かながわパークレンジャーの活動報告 神自環保セ報 8 平成 19 年 9 月に発足したかながわパークレンジャーの活動のうち、主に発足から平成 21 年度までの 2 年 7 ヶ月の成果について報告する。かながわパークレンジャーの活動内容は、丹沢大山自然公園、陣馬相模湖自然公園などの登山道の巡視をはじめとし、実際にフィールドに出て新しい情報を収集することに大きな特徴がある。また、ボランティアや登山者などの県民と直接接する機会を多く持ち、協働の活動を多く行っている。その中で、県民と県行政とのよりよい関係をつくることを目指し、自然環境の大切さについての普及啓発を積極的に行っている。本稿では、これまでのかながわパークレンジャーの活動をまとめ、今後の課題について考察した。

I はじめに

2004 年から 2006 年にかけて行われた丹沢大山総合調査によって導き出された、丹沢大山が抱える 8 つの特定課題のうちの 1 つに、自然公園の適正利用がある。丹沢大山には年間約 30 万人と推計される入山者が特定の登山道に集中し、登山道及びその周辺が荒廃するなど、オーバーユース問題が顕在化して(神奈川県環境農政部緑政課, 2007) おり、その解決を図ることが必要とされている。自然公園の適正利用に向けての取組みの 1 つとして、神奈川県では、平成 19 年度より「かながわパークレンジャー」(以下「パークレンジャー」)を導入した。

パークレンジャーとは、県自然公園指導員(※用語解説 1)などの県民のボランティアと連携し、丹沢全域における定期的な巡視や、登山者へのマナー指導(神奈川県企画部政策課, 2008)などの普及啓発活動を行う職員であり、導入当初から平成 22 年度に至るまで、3 名の非常勤職員が活動に携わっている。また、平成 21 年 9 月より緊急雇用対策事業で 2 名の日々雇用職員を追加し、以降は 5 名体制での活動を行っている。

II パークレンジャーの活動

1 活動概要

自然公園の適正利用のための取組みとして設置されたパークレンジャーは、平成 19 年 9 月 15 日の発足式以降、以下の内容で活動を行っている。

(1) 活動範囲

丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園、県立陣馬相模湖自然公園、東海自然歩道

(2) 職務内容

- 登山道の巡視、点検、応急補修
- 自然公園の利用の指導、マナーの普及
- 希少動植物等の生息状況等の観測
- 県民と協働した登山道の補修等の自然環境保全活動
- 自然公園等の適正利用及び自然環境の保全に関する普及啓発

(3) 地域担当のしくみ

活動範囲内で効率よく活動し、また周辺の関連機関と顔の見える関係性を築くため、1. 表丹沢、2. 西丹沢、3. 東丹沢、北丹沢、陣馬山城の 3 つの各地域に担当を分け、連絡調整等を行っている。

* 神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部自然保護課(〒243-0121 厚木市七沢 657)

2 活動詳細

パークレンジャーに定められた職務は、おおまかに1. 登山道巡視と2. 県民協働及び普及啓発の2つの活動の中で行っている。

(1) 登山道巡視

ア 計画的巡視と即応的巡視

登山道の巡視はパークレンジャーの活動の中で最も中心とする内容であり、発足以来、活動範囲内の合計337,302mの登山道(※用語解説2)を1年間ですべて巡視している。巡視には計画的巡視と即応的巡視の2種類がある。

計画的巡視では、主に施設点検と情報収集を計画的に行っている。登山道管理用の台帳を持参し、実際の現場と照らし合わせて施設の状態を点検する他、倒木や崩落等の自然現象による登山道の危険箇所についても同時に点検している。巡視中に確認した施設の不具合や危険箇所に関しては報告書を作成し、自然環境保全センター自然環境保全センター自然公園課での登山道管理の参考資料としている。小規模なものであれば、パークレンジャー自身で簡易補修を行っている。

即応的巡視では、主に施設や登山道に発生した問題点への応急対応を行っている。台風後の登山道の復旧など、安全面に関わる問題点に即応することが多く、登山道管理を担う自然公園課と連携しながら活動を行っている。



写真1 施設の簡易補修の様子

イ 自然情報収集と登山道危険箇所等の情報収集

パークレンジャーの巡視時には、自然情報の収集を行っている。特に丹沢を代表するゴヨ

ウツジ(シロヤシオ)やミツバツツジ、トウゴクミツバツツジの開花や、紅葉、積雪の情報については、自然環境保全センターに問い合わせが多く、周辺市町村の観光協会やビジターセンターからの照会も多いため、重視して収集している。その他、各地域を代表する花の開花情報や季節ごとの花の情報も収集している。なお希少種や絶滅危惧種を確認した場合は、位置の確認と写真による記録を行い、後日自然環境保全センター研究連携課職員へ個別に情報提供を行っている。また、巡視中は登山者の目線を持つことを意識し、崩落や登山道の難所、道迷いが生じやすい地点など、登山者の安全に関わる情報についても積極的に収集している。



写真2 植物の写真撮影の様子

ウ 登山者等との会話による情報収集と利用指導

パークレンジャーの登山道巡視では積極的に登山者と会話することで、登山者の感覚を得ることに努めている。そのため、巡視は多くの登山者が入山する週末を含む水曜日、木曜日、土曜日、日曜日に行っている。

登山者との会話の中では、道案内、山座同定の解説、登山における注意などをする機会がある。特に、観光感覚で簡単に入山できてしまい、事故例もあるエリアでは、事故防止のための声かけの時間をとり、時間や装備等をみて危険のある登山者には下山を促すなどの活動を行っている。また、迷っている様子の登山者には積極的に声をかけ案内をするとともに、その記録は迷いやすい地点の情報として生かすため自然公園課に報告している。



写真3 登山者へ山座同定の解説

丹沢・陣馬山城は登山マナーが比較的良好に守られているため、口頭で登山者に指導を行うことは少ない。マナーが守られていない一部の例に対して、焚き火や登山道以外への踏み込みを行わないことの重要性を説明したラミネート看板を設置し、マナーの向上を呼びかけている。



図1 登山道利用を呼びかけるラミネート看板

また、巡視時には頻繁に山小屋に立ち寄り、山小屋の意見や地域の詳細な情報を聞き、自然環境保全センターの各課に伝えている。

エ 巡視で得た情報の発信

パークレンジャーが得た開花や積雪、登山道の危険箇所の情報を、登山者への案内等を行っている関係機関へ「パークレンジャーより自然公園情報」として発信している。内容は、「巡視コース」、「登山道注意点情報」、「自然情報」を、写真と共に迅速に提供している。発信方法は Eメールによる直接送信とし、送信頻度はパーク

レンジャーの計画的巡視 1 回につき 1 通の送信を基本とする 1 週間に約 1～3 通の頻度である。

なおこの取り組みは平成21年2月から開始し、その時点での情報提供先はビジターセンター、周辺市町村、山小屋、NPO等21団体であったが、平成22年12月現在では36団体まで増加している。

オ 巡視で得た情報をホームページで公開

特定の関係機関には、タイムリーな情報を提供するため Eメールにて「パークレンジャーより自然公園情報」を発信しているが、広く一般の方々へ自然公園の紹介や情報提供を行う目的で、平成21年6月より神奈川県自然環境保全センターのホームページに掲載している。ホームページでは、各コースの情報を探し出しやすいよう、エリアごとに分類しているほか、季節ごとの自然情報や登山事故防止の注意点を掲載している。



図2 パークレンジャーのホームページ

カ 情報活用の流れ

パークレンジャーの登山道巡視活動に関わる情報の活用の流れを図3にまとめた。

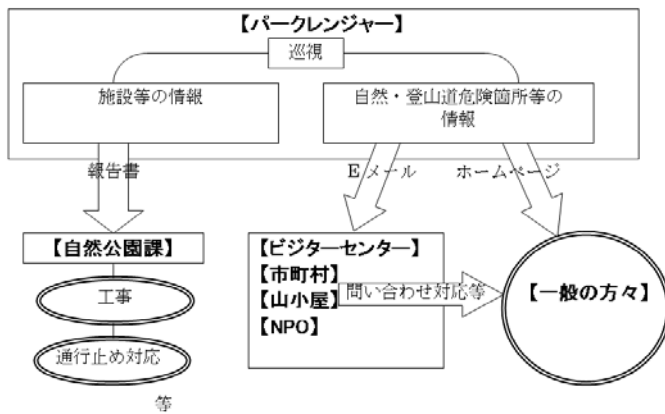


図3 パークレンジャーの情報活用の流れ

(2) 県民協働、普及啓発

ア 自然公園指導員（以下、「指導員」）等からの巡視報告書の活用とフィードバック

パークレンジャーは、指導員から自然環境保全センターに寄せられる年間約 400～500 件の巡視報告書のすべてを確認している。そのうち丹沢・陣馬山城の登山道における問題箇所についての報告は、即応的巡視の計画に取り入れ対応している。問題の規模が大きくパークレンジャーによる対応が不可能なものについては自然公園課に伝え、工事対応等に生かされている。開花や積雪の情報等が含まれるものについては、報告書を確認した同日にビジターセンターへ転送し、登山者への案内に生かされている。

こんにちは、パークレンジャー浅見です。
関係各所から頂いた開花情報を速報としてお伝えします。

※山城
＜地域＞
・種名
確認日 場所

※丹沢山城
＜東丹沢＞
・シロヤシオツツジ
5月21日 丹沢三峰1000m～1200m付近:満開～終わり
1300m～1400m:咲き始め～見頃
1500m付近:蕾

・トウゴクミツバツツジ
5月21日 丹沢三峰1300m付近:咲き始め
・ミヤマザクラ
5月21日 丹沢三峰900m付近見頃

＜西丹沢＞
・トウゴクミツバツツジ ・シロヤシオツツジ
5月25日 檜洞丸 ツツジコース
1350m～1450m付近:にかりて開花
1500m～頂上付近:蕾
檜洞丸～犬越路
1200m～1450mで開花

＜上記情報元＞
神奈川県自然公園指導員、西丹沢自然教室職員、
かながわパークレンジャー

図4 開花に関する速報

ゴウツツジ（シロヤシオ）とサクラの開花、紅葉、積雪の情報を特に抜き出して整理し、それ

にパークレンジャー自身が巡視した情報を合わせて簡潔にまとめ、周辺市町村、ビジターセンター、山小屋、NPO 等に速報として発信している。

こんにちは かながわパークレンジャーの石川です。
いつもお世話になっております。

関係各所から頂いた情報より、3月10日の丹沢陣馬山城の積雪速報をお伝えします。
以下、・場所:積雪量:情報時間:備考です。

＜情報＞
・蛭ヶ岳山頂:20cm:朝:9時30分の時点で雨
・高指山山頂:22cm:12時:12時の時点で5℃、水(まい)雪
・陣馬山山頂:30～40cm:昼ごろ:解けるのが早い
・丹沢湖周辺:15cm:9時30分:車道には積雪なし
・宮ヶ瀬湖周辺:10cm強:11時30分:11時30分の時点で雨
・西丹沢自然教室周辺:10cm:8時30分:9時の時点で雨
・札掛周辺:15cm:9時:湿った雪で急速に解け始めている
・陣馬自然公園センター周辺:25～30cm:9時30分

＜上記情報元＞
自然公園指導員、蛭ヶ岳山荘小屋番、かながわパークレンジャー、
陣馬自然公園センター職員による陣馬山登山者からの聞き取り、
丹沢湖ビジターセンター職員、宮ヶ瀬ビジターセンター職員、
西丹沢自然教室職員、札掛森の家職員、陣馬自然公園センター職員

以上よろしくお願ひします。

図5 積雪に関する速報

また指導員へのフィードバックとして、平成20年1月から登山道の補修箇所の情報を毎月1回まとめ、発信している。また、関係機関に速報として発信している開花、紅葉、積雪の情報は、指導員にも礼文を添えて発信している。その結果、指導員の報告に開花、紅葉、積雪の具体的な情報が増え、さらに自然公園の情報が充実した。

なお、指導員巡視報告書は最終的には自然環境保全センター自然保護課と自然公園課ですべて回覧し、情報を共有している。

指導員からの情報の活用の流れを図6にまとめた。

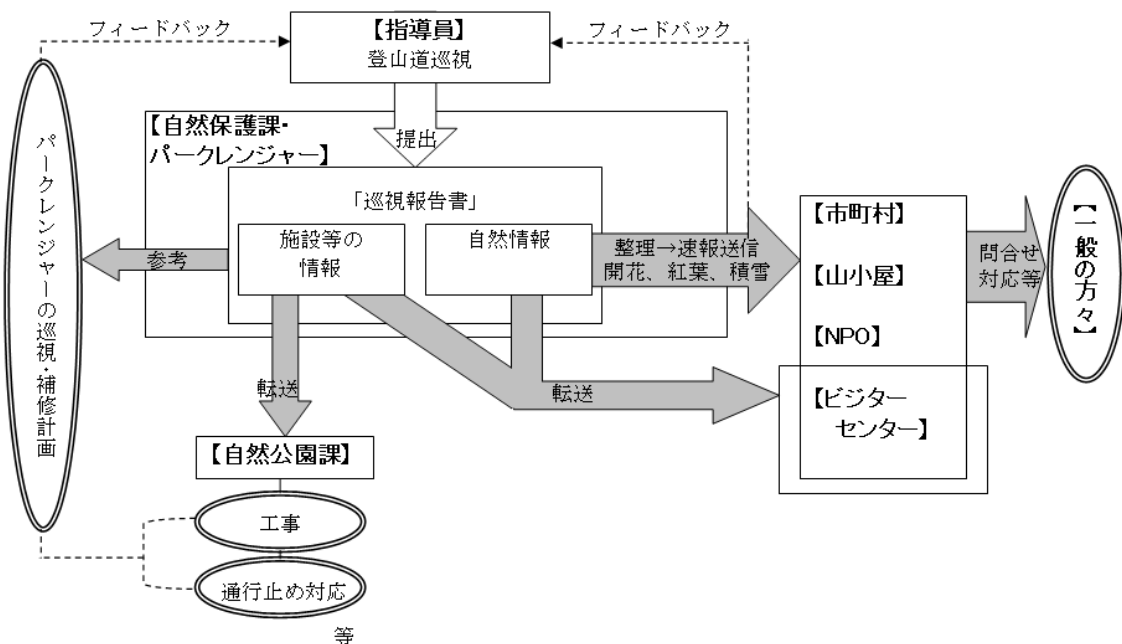


図 6 指導員からの情報の活用の流れ

イ 指導員と協働し、登山道補修等を定期的に実施

平成 14 年より指導員と保全センターの協働で登山道の補修活動が行われている。これを「登山道補修隊」（以下補修隊）と呼び、丹沢陣馬山城と箱根にて定期的に実施されている。パークレンジャーの発足後は、丹沢陣馬山城での補修隊の計画及び準備、現場での進行役をパークレンジャーが担うようになった。

丹沢陣馬山城での補修隊活動は月に 1 回のペースで行い、1 回の参加人数は募集に応じた約 10～15 名である。補修箇所は指導員の巡視報告書やパークレンジャーの巡視をもとに計画している。補修隊の実施は通常、パークレンジャーによる準備 2～3 日と当日 1 日の計 3～4 日間をかけている。当日は、指導員の協働で資材の荷揚げから行い、登山道の水切り掘削、階段補修、ロープ柵設置等を実施している。また、平成 19 年からは補修隊活動の一環として、冬季の 1 月～3 月にヤマビル対策の落葉かきを行っている。

また、パークレンジャーは指導員研修会の実施にも関わっている。自然保護課では年間数回、指導員のスキルアップのための研修会を実施している。巡視のポイントや、丹沢陣馬山城の環境と課題についての研修会では、パークレンジャーが解説を担当している。その他の研修会では、担当職員の補助として当日の運営に協力している。



写真 4 補修隊の活動の様子

ウ 県内 NPO 等との協働

登山道を巡視しているパークレンジャーならではの視点を生かし、自然体験や自然再生に関する活動のスタッフや講師として年間 2～4 回程度県内 NPO 等からの協力要請に応じている。これまでに協力した団体は丹沢自然保護協会、丹沢自然学校、神奈川県山岳連盟、神奈川県勤労者山岳連盟などであり、子どもの環境学習への協力や、一般の方々への県の取り組みについての解説、協働での登山道補修などを行った。



写真 5 子どもの環境学習への協力

また、神奈川県が以前より継続している県民協働の活動にも関わっている。具体的には、県民参加による丹沢の自然環境保全対策活動である「丹沢の緑を育む集い」のウラジロモミのネット巻きや植樹活動等に年間 4～5 回協力し、県民と共に自然再生のための活動を行うとともに、参加者に丹沢の自然等について解説している。企業、各種団体、行政等でゴミ持ち帰り運動を推進している「丹沢大山クリーンピア 21」の活動に年間 2～3 回協力し、市町村と共にゴミ持ち帰りの声かけや、県民と共に自然公園内の清掃活動を行っている。

市町村への関わりとしては、秦野市戸沢に夏季のみ設置される臨時派出所の開閉所式への出席がある。

(3) その他の活動

ア ビジターセンターとの連携

パークレンジャーからビジターセンターに自然公園の情報を送信している他、ビジターセンターからは自然環境保全センターに年間 20～30 件、ビジターセンター職員による登山道の「パトロール報告書」が寄せられる。それらは指導員からの巡視報告書と同様に、パークレンジャーの即応的巡視の計画や自然公園課の工事対応、開花や積雪の情報発信に生かしている。また、自然公園内での情報の詳細や、気になる点についても日常的に連絡を取り合い、連携を図っている。

その他、ビジターセンター主催の登山マナーの普及啓発等をテーマにしたイベントにパークレンジャーが講師として協力している。また、自然環境保全課、自然環境保全センター、ビジターセンターで年間 2～3 回開催している自然保護情報交換会の場にはパークレンジャーも出席し、連携を図っている。

イ 県外機関との連携

県立陣馬相模湖自然公園の主稜線部は都県境であるため、Eメールによる「パークレンジャーより自然公園情報」のうち、陣馬山城の情報は東京都自然保護員（通称「都レンジャー」）と高尾ビジターセンターにも送信している。また、都県境の登山道の問題点に関しては、必要に応じて相互に連絡を取っている。

Ⅲ 活動実績と成果

パークレンジャー発足以来の活動実績回数を表 1 に整理した。

表 1 かながわパークレンジャーの活動実績

年度 内容 (回)	登山道巡視			県民協働・普及啓発		その他 報告書 作成等*2
	巡視	Eメールによる 自然公園 情報発信	ホームページ 更新	イベント 協力・協働*1	指導員へ情報発信 (フィードバック)	
平成 19 年度 (9 月 15 日より)	52	—	—	36	5	69
平成 20 年度	108	22 (2 月より)	—	61	10	138
平成 21 年度	112	105	17 (6 月より)	62	25	135
合計	272	127	17	159	40	342

*1 イベントの下見と準備の回数を含む

*2 巡視報告書等作成のための内勤、研修、打ち合わせ等の合計

1 登山道維持管理に関する成果

パークレンジャーが1年に1回、くまなく丹沢陣馬山域の登山道を巡視したことで、すべての登山道の現状が把握できるようになった。これは自然公園の適正利用につながる大きな貢献と言える。実際、平成 22～26 年度の自然環境整備計画（通称 5 ヶ年計画）の作成に向け、パークレンジャーによるすべての登山道の相対評価が生かされた。また、パークレンジャーの巡視を通し、登山道の荒廃が進む前にこまめな点検と補修を行うことは、登山道の維持管理の点で役立っている。

2 県民協働の推進に関する成果

パークレンジャーが県内NPO等との協働を行うことで、県と県民のつながりがより充実した。特に指導員との日常的定期的かつ頻繁な情報交換と補修隊の活動は、きめ細かく登山道整備を行うことに役立っている他、県職員と県民の交流を深めることにも役立っている。

3 自然公園情報の発信の成果

パークレンジャーは、Eメールとホームページによる自然公園情報の発信を開始した。それによりビジターセンター、市町村、山小屋等関係機関とのつながりが深まり、さらに多くの一般の県民に丹沢陣馬の状況を伝えることができるようになった。

IV パークレンジャー活動のこれから

パークレンジャーの強みを生かすのであれば、登山者や指導員等の県民と関わる活動や、現場感覚を生かした活動を強化するのが効果的と思われる。例えば、登山道巡視の中の視点を増やし、丹沢大山自然再生計画に生かせる情報を選択的に収集、評価する取り組みを行えると、さらに自然公園の適正利用に向けた成果が出せると考えられる。

あるいは登山道補修活動において指導員の意見の取り入れや、パークレンジャーと指導員間での技術の伝承や向上のしくみをつくることができると、県民協働の体制の充実につながると思われる。また、現在のパークレンジャーの県民協働活動では補修活動が多く時間を占めているが、普及啓発活動についても活動を広げていける可能性がある。実際に、平成 22 年度は指導員とパークレンジャーの協働で新たにトイレの紙ゴミを持ち帰ることを登山者に呼びかけるキ

ャンペーンを試行的に実施した。この活動を継続して実施し、トイレの紙ゴミ持ち帰りマナーの定着を目指す。

現行の丹沢大山自然再生計画の中ではパークレンジャーの位置づけは明確でないが、さらに効果的な活動を展開するためには、第2期丹沢大山自然再生計画に合わせ、パークレンジャーの位置づけ及び役割を明確にする必要があると思われる。

V 用語解説

※用語解説1 ・神奈川県自然公園指導員

県内の自然公園の風致景観の保護と適正な利用について指導普及活動を行い、自然保護の推進に努めることを目的にした制度。「人と自然が好きな 20～74 歳の方」を条件とする公募に応じた約 180 名のボランティアの方々に対し、2 年間の任期で知事が委嘱している。自然公園指導員は、県内の自然公園や長距離歩道を巡視するとともに、自然公園の利用に対する指導、自然公園利用者の事故防止の指導、自然等の解説、違法行為等の報告、施設や自然に関する情報の報告を行う。なおこの事業担当課は、自然保護課である。

※用語解説2 ・登山道

神奈川県は、丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園内に、50 路線の登山道を管理している。同じく県立陣馬相模湖自然公園には 13 路線の登山道を管理している。また、それらの自然公園とその周辺には、他県にまたがる「東海自然歩道」や一都六県にまたがる「関東ふれあいの道」も設置され、神奈川県が管理している。

「関東ふれあいの道」については、山岳地帯への設置部分のみ、パークレンジャーの巡視範囲としている。

VI 引用文献

- 神奈川県環境農政部緑政課（2007）丹沢大山自然再生計画． P22
- 神奈川県企画部政策課（2008）神奈川県力構想・白書 2007． P112
- 神奈川県自然環境保全センター（2010）神奈川県自然公園指導員ハンドブック改定版． P1